

令和8年度 LINE を活用したアンケート調査結果
「福島市の景観まちづくりについての調査」

作成：福島市都市計画課

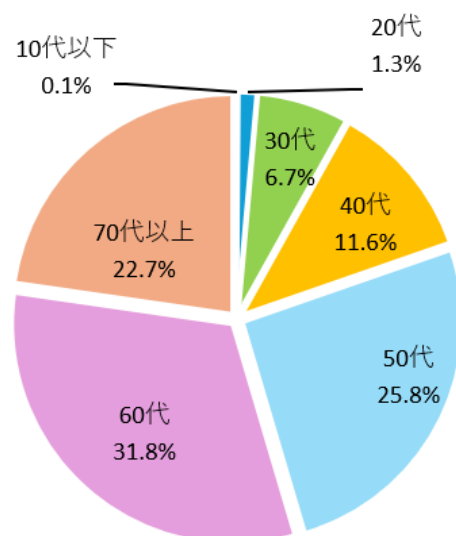
テーマ	福島市の景観まちづくりについて
目的	福島市では、平成30年に策定した「福島市景観まちづくり計画」の見直しに向けた取組みを進めています。 福島市の景観まちづくりについて、市民の皆様のご意見を参考にするため、アンケート調査を実施しました。

【調査期間】 令和8年6月1日(月)正午～6月15日(月)午前8時
【対象者数】 56,425人
(市公式 LINE 友だち登録者のうち、受信設定が市内かつアンケート同意者)
【回答者数】 1,840人
【回答率】 3.26%

問1 あなたの年齢をお答えください。

10代以下	2人
20代	24人
30代	123人
40代	213人
50代	474人
60代	586人
70代以上	418人

<回答者数：1,840人>

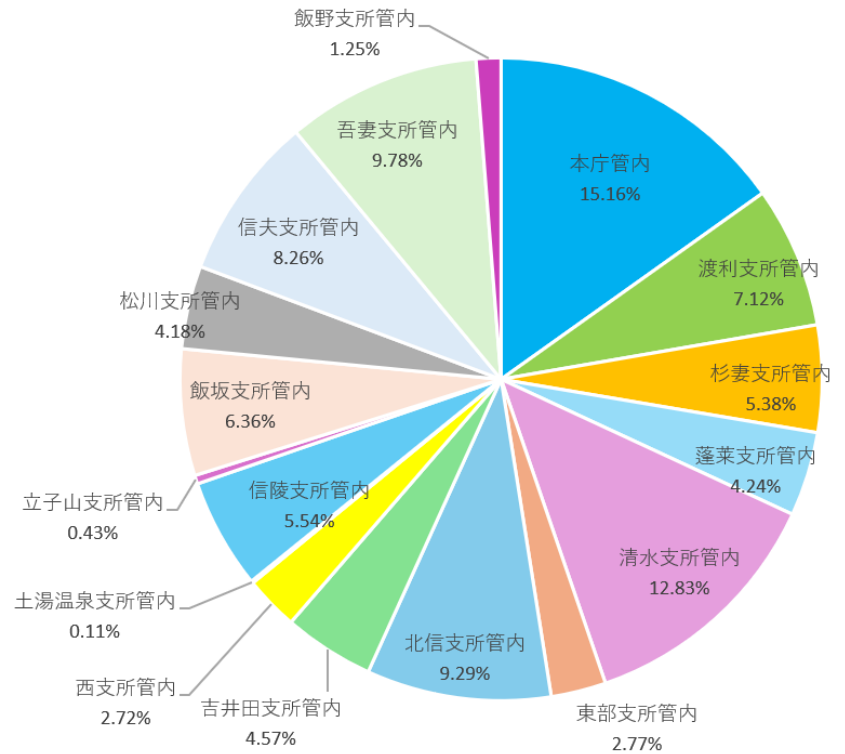


問 2

あなたがお住まいの地区をお答えください。

本庁管内	279人
渡利支所管内	131人
杉妻支所管内	99人
蓬萊支所管内	78人
清水支所管内	236人
東部支所管内	51人
北信支所管内	171人
吉井田支所管内	84人
西支所管内	50人
土湯温泉支所管内	2人
信陵支所管内	102人
立子山支所管内	8人
飯坂支所管内	117人
松川支所管内	77人
信夫支所管内	152人
吾妻支所管内	180人
飯野支所管内	23人

<回答者数：1,840人>

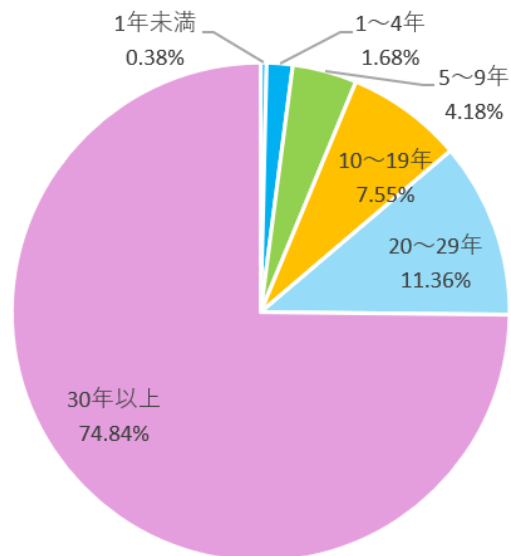


問3

福島市での居住年数を教えてください。

1年未満	7人
1～4年	31人
5～9年	77人
10～19年	139人
20～29年	209人
30年以上	1,377人

<回答者数：1,840人>

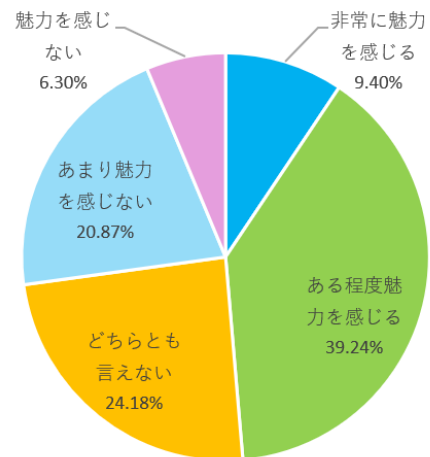


問4

あなたは福島市の景観にどの程度魅力を感じていますか。

非常に魅力を感じる	173人
ある程度魅力を感じる	722人
どちらとも言えない	445人
あまり魅力を感じない	384人
魅力を感じない	116人

<回答者数：1,840人>



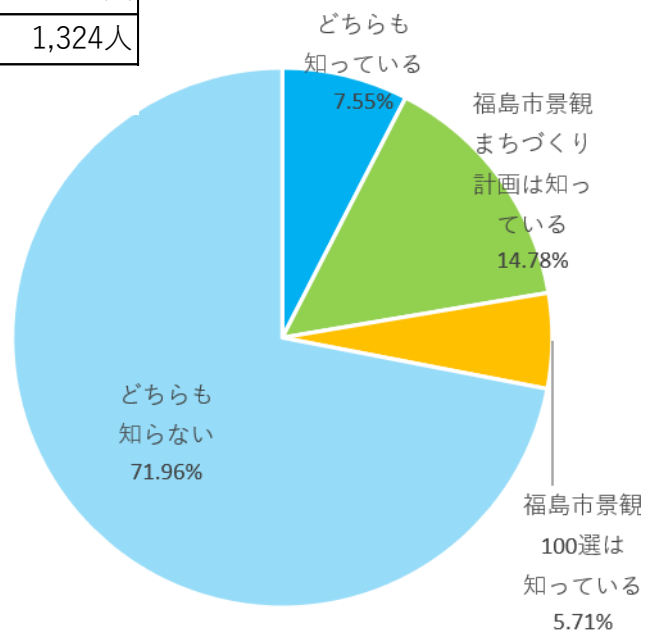
「ある程度魅力を感じる」が39.2%で最も多く、「非常に魅力を感じる」と合わせると48.6%となりました。一方で、「あまり魅力を感じない」「魅力を感じない」も27.2%みられました。多くの市民が福島市の景観に一定の魅力を感じているものの、強い評価には至っていない層も相当数存在していることがわかりました。

問5

福島市景観まちづくり計画や福島市景観100選を知っていますか。

どちらも知っている	139人
福島市景観まちづくり計画は知っている	272人
福島市景観100選は知っている	105人
どちらも知らない	1,324人

<回答者数：1,840人>



「どちらも知らない」が72.0%と最も多く、景観に関する市の取組の認知度は十分とはいえない結果となりました。

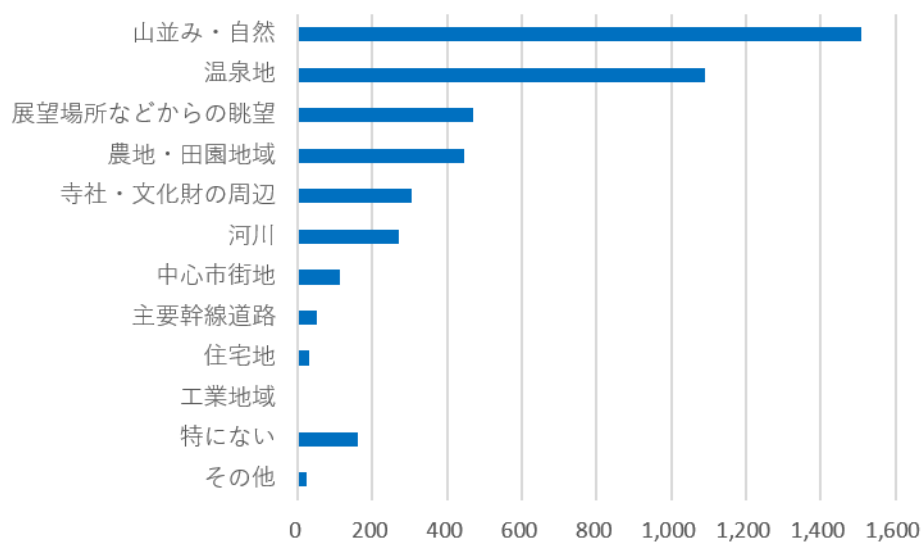
一方で、「どちらも知っている」は7.6%にとどまっています。景観に対する関心や保全意識は高いものの、具体的な施策や制度が十分に浸透していない状況がわかりました。

問6

福島市らしい景観として、何が魅力的だと感じますか。
3つまで選択してください。

山並み・自然	1,509人
温泉地	1,090人
展望場所などからの眺望	468人
農地・田園地域	444人
寺社・文化財の周辺	304人
河川	272人
中心市街地	112人
主要幹線道路	50人
住宅地	30人
工業地域	2人
特にない	160人
その他	24人

<回答者数：のべ4,465人>



(その他の主な回答)

- 花見山、季節の花、街路樹など、花や樹木のある景観
- フルーツライン、果樹園、果物畑など、果樹、果物のある景観
- あづま運動公園、四季の里などの公園・緑地
- 福島盆地の夜景や朝焼け、雲海などの眺望
- 県立美術館や教育会館などの近代建築
- 信夫山、福島競馬場、デパートなどの場所・施設

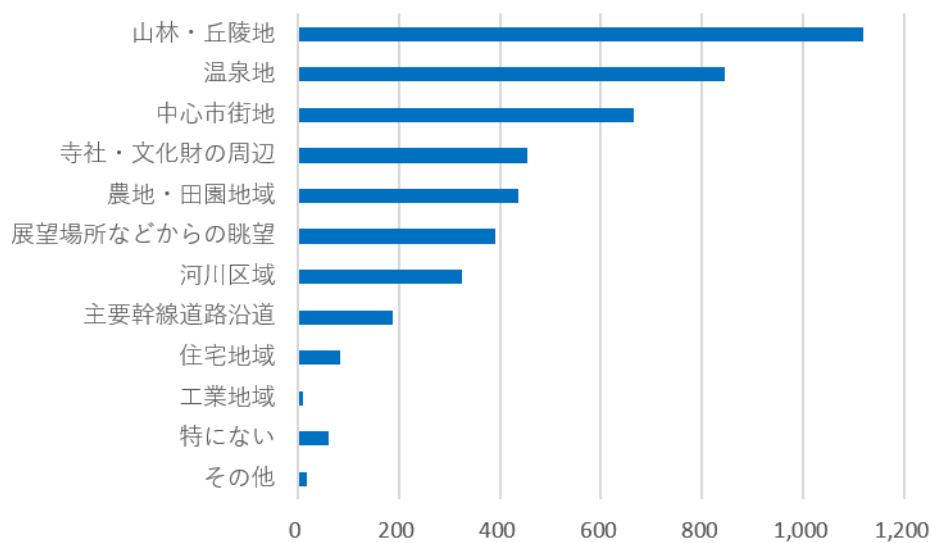
「山並み・自然」が1,509件で最も多く、次いで「温泉地」1,090件、「展望場所などからの眺望」468件、「農地・田園地域」444件となりました。福島市らしさとして、多くの市民が豊かな自然環境や山並み、温泉地などを高く評価していることが分かります。一方で、市街地や道路などの都市景観を選んだ回答は比較的少なく、福島市の魅力は都市的な景観よりも自然景観に支えられていることがわかりました。

問7

今後、特に景観を保全する必要があると思うエリアはどこですか。
3つまで選択してください。

山林・丘陵地	1,118人
温泉地	845人
中心市街地	665人
寺社・文化財の周辺	455人
農地・田園地域	436人
展望場所などからの眺望	392人
河川区域	324人
主要幹線道路沿道	188人
住宅地域	84人
工業地域	12人
特にない	61人
その他	19人

<回答者数：のべ4,599人>



(その他の主な回答)

- 公園の除草や、街灯など維持管理が必要な公園
- メガソーラーや太陽光発電施設が設置された場所
- 古い建築物や近代建築など、保存が必要な場所
- 道路の雑草や補修跡、街路樹など、維持管理が必要な道路景観
- 星空やホタルなど、保全が必要な自然環境
- 福島競馬場、福島駅周辺、花見山などの場所

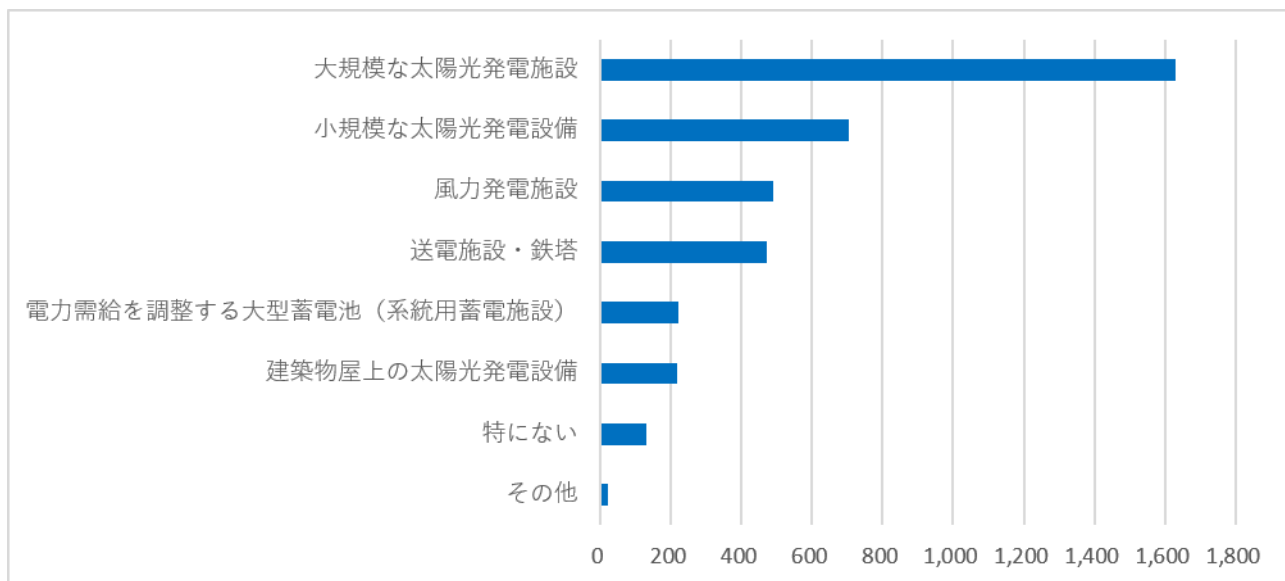
「山林・丘陵地」が1,118件で最も多く、「温泉地」845件、「中心市街地」665件、「寺社・文化財の周辺」455件が続きました。市民は福島市らしさの源である自然景観の保全を最も重視していることが分かりました。また、中心市街地も多く選ばれており、自然だけでなく都市空間の魅力向上や景観保全が求められていることが分かりました。

問8

景観やまちなみとの調和の面で、なじみにくいと感じる再生可能エネルギー施設はどれですか。3つまで選択してください。

大規模な太陽光発電施設	1,628人
小規模な太陽光発電設備	705人
風力発電施設	491人
送電施設・鉄塔	473人
電力需給を調整する大型蓄電池（系統用蓄電施設）	220人
建築物屋上の太陽光発電設備	219人
特になし	132人
その他	23人

<回答者数：のべ3,891人>



（その他の主な回答）

- 山林の改変を伴う太陽光発電施設
- 先達山など、具体的な場所にある太陽光発電施設
- 電柱・電線や高層マンションなど、選択肢以外の景観要素
- 道路の雑草や補修跡、採掘跡などの景観上の要素
- 設問内容や回答方法に関する意見
- 水力発電、ごみ処理場、遊休農地など

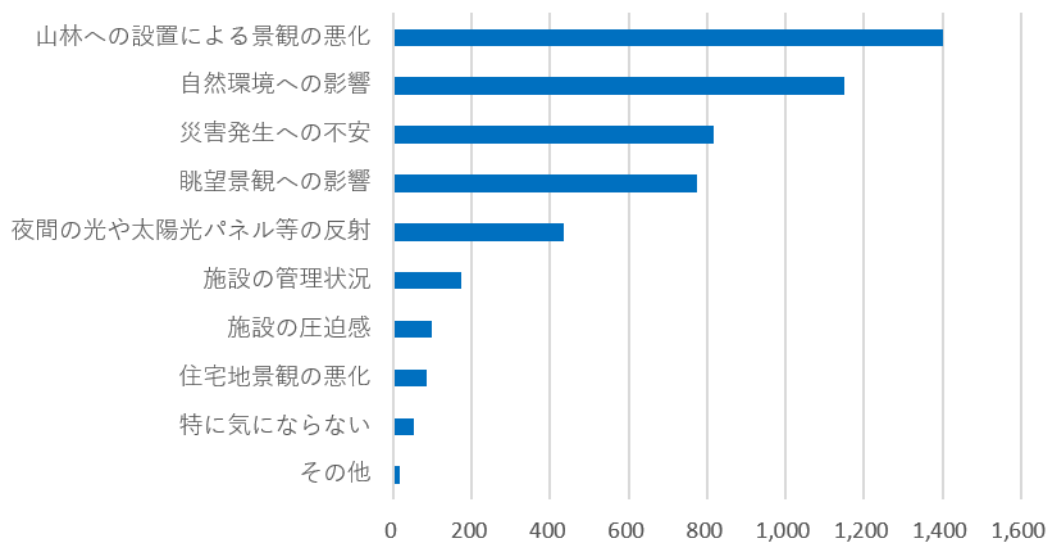
「大規模な太陽光発電施設」が 1,628 件で突出して多く、他の選択肢を大きく上回りました。次いで「小規模な太陽光発電設備」705 件、「風力発電施設」491 件となっています。市民は特に大規模な再生可能エネルギー施設について、景観との調和に課題を感じていることが分かりました。

問9

再生可能エネルギー施設の立地について、どのような点が気になりますか。
3つまで選択してください。

山林への設置による景観の悪化	1,403人
自然環境への影響	1,151人
災害発生への不安	818人
眺望景観への影響	775人
夜間の光や太陽光パネル等の反射	436人
施設の管理状況	173人
施設の圧迫感	98人
住宅地景観の悪化	86人
特に気にならない	52人
その他	17人

<回答者数：のべ5,009人>



(その他の主な回答)

- 設備や耐用年数後の撤去・放置・リサイクル・廃棄に関する点
- 自然環境や野生動物の生息環境への影響に関する点
- 熊の出没や人的被害への影響に関する点
- 山林伐採や大規模開発による地形変化・景観・災害リスクに関する点
- 行政のチェック体制や制度運用に関する点
- 風力発電の地形適正や発電効率に関する点

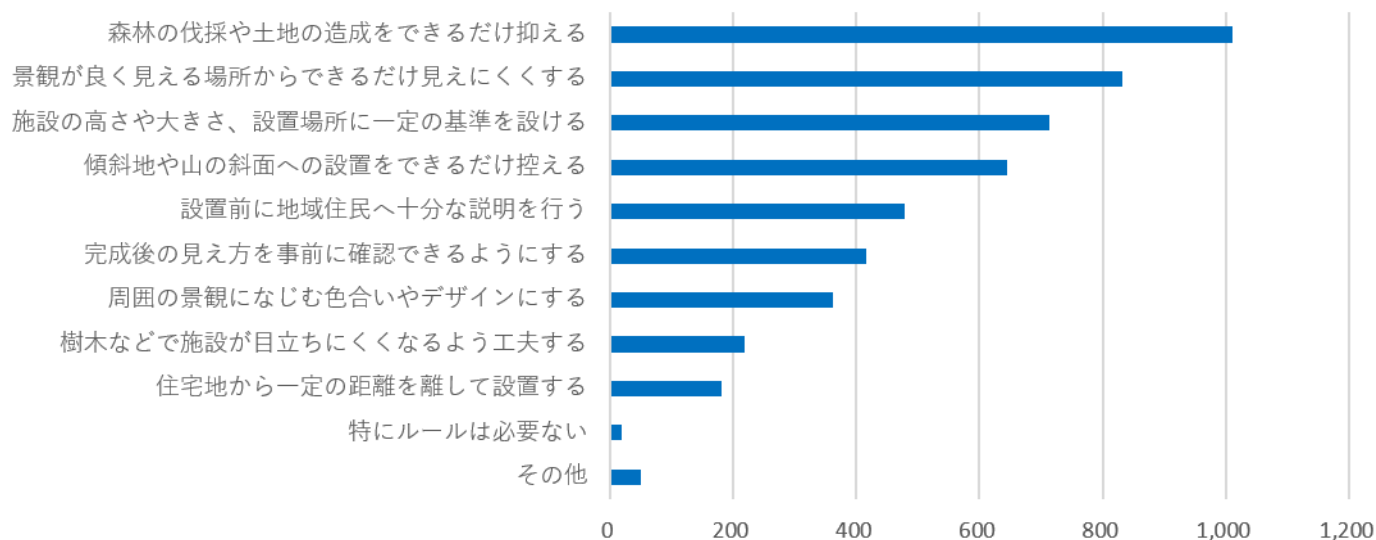
「山林への設置による景観の悪化」が 1,403 件で最も多く、「自然環境への影響」1,151 件、「災害発生への不安」818 件、「眺望景観への影響」775 件が続きました。市民が懸念しているのは景観だけではなく、森林伐採による自然環境への影響や防災面への不安も含まれていることがわかりました。

問10

再生可能エネルギー施設の立地について、どのような景観上のルールが必要だと思いますか。3つまで選択してください。

森林の伐採や土地の造成をできるだけ抑える	1,010人
景観が良く見える場所からできるだけ見えにくくする	831人
施設の高さや大きさ、設置場所に一定の基準を設ける	713人
傾斜地や山の斜面への設置をできるだけ控える	644人
設置前に地域住民へ十分な説明を行う	478人
完成後の見え方を事前に確認できるようにする	417人
周囲の景観になじむ色合いやデザインにする	362人
樹木などで施設が目立ちにくくなるよう工夫する	218人
住宅地から一定の距離を離して設置する	181人
特にルールは必要ない	20人
その他	50人

<回答者数：のべ4,924人>



(その他の主な回答)

- 再生可能エネルギー施設の設置自体の抑制・禁止
- 森林伐採に加え、生態系・野生動物への影響評価や保全の義務
- 廃止時の撤去費用の事前積立や、倒産時も含めた原状回復の制度化
- 反射光・災害・事故など安全面に関する基準整備と防止対策の強化
- 法的拘束力のある条例・許可制、罰則を伴う規則、責任主体の明確化
- エネルギー政策そのものの疑義や、施設の必要性に関する意見

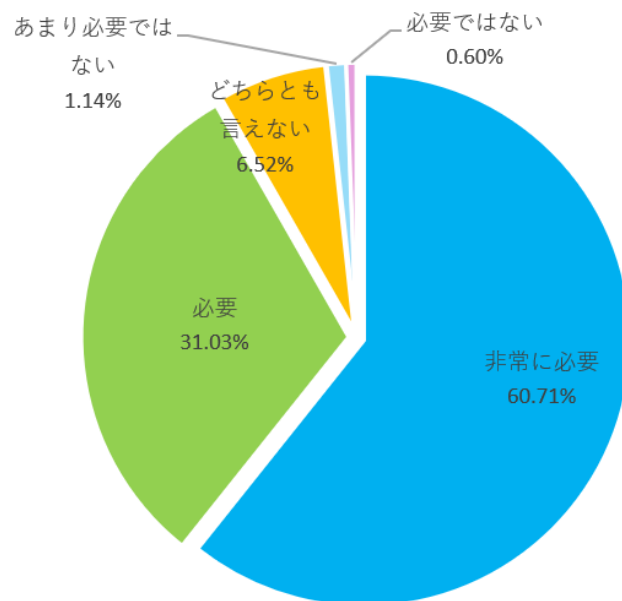
「森林の伐採や土地の造成をできるだけ抑える」が 1,010 件で最も多く、「景観が良く見える場所からできるだけ見えにくくする」831 件、「施設の高さや大きさ、設置場所に一定の基準を設ける」713 件が続きました。市民は再生可能エネルギー施設の導入自体よりも、周辺環境や景観への影響を抑えるためのルール整備を重視していることが分かりました。

問11

地域ごとの景観の特徴に応じて、景観形成のルールを設定することが必要だと思いますか。

非常に必要	1,117人
必要	571人
どちらとも言えない	120人
あまり必要ではない	21人
必要ではない	11人

<回答者数：1,840人>



「非常に必要」が 60.7%、「必要」が 31.0%で、合わせて 91.7%となりました。地域ごとの景観特性に応じたルールづくりについて、市民の大多数が必要性を感じていることが分かりました。画一的な基準ではなく、それぞれの地域が持つ自然環境や歴史、文化、まちなみの特徴を活かした景観形成が求められていることがわかりました。

問12

そのほか、本市の景観形成について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

<回答者数:496人>

(主な意見)

①太陽光発電施設・メガソーラーへの意見(約170件)

先達山や吾妻山周辺の大規模太陽光発電施設に対し、景観の悪化、反射光、森林伐採による自然環境への影響、災害リスクなどを懸念する意見が最も多くみられました。また、再生可能エネルギー施設の設置に当たっては、設置基準の厳格化、景観形成に関するルール整備、住民説明の充実、情報公開の徹底などを求める意見も多く寄せられました。

②自然景観の保全(約54件)

吾妻連峰や信夫山、阿武隈川など福島市を代表する自然景観を守ってほしい、将来世代へ継承してほしいという意見が多数見られました。

③福島駅周辺・中心市街地の再整備(50件)

福島駅東口の再開発を早く進めてほしい、駅前の空き地や未利用地を活用してにぎわいを創出してほしい、商業施設や人が集まる空間が必要という意見が多く見られました。

④道路・河川敷・公園等の維持管理(約32件)

道路沿いの雑草や街路樹の管理不足、河川敷の草刈り、公園の維持管理など、身近な景観環境の改善を求める意見が多数寄せられました。

⑤再生可能エネルギー施設のルール強化(20件)

設置基準の厳格化、住民説明の充実、事前シミュレーションの実施、撤去費用の確保など、開発に対するルール整備を求める意見が多く見られました。

⑥野生動物・環境保全への配慮(約8件)

熊などの野生動物の生息環境への影響を懸念する意見や、生態系保全を重視すべきとの意見が目立ちました。太陽光発電施設との関連を指摘する声も見られました。

先達山や吾妻山周辺の大規模太陽光発電施設に関する意見が最も多く、景観の悪化や森林伐採による自然環境への影響、災害リスクへの懸念が多く寄せられました。また、設置に関するルール整備や住民説明の充実を求める声も目立ちました。さらに、自然景観の保全、福島駅周辺の再整備、道路や公園等の維持管理についても多くの意見が寄せられており、市民の身近な景観や生活環境に関する課題への対応を求める声が多く見られました。

【都市計画課まとめ】

本アンケートでは、市民が福島市らしい景観として「山並み・自然」や「温泉地」を高く評価しており、今後保全すべき景観としても同様の対象が上位に挙げられました。このことから、市民が魅力を感じている景観と将来にわたり守りたい景観はおおむね一致していることがわかりました。

一方で、景観まちづくり計画や景観 100 選の認知度は低く、景観への関心の高さに比べて、行政の取組に関する情報は十分に浸透していない状況がわかりました。

また、再生可能エネルギー施設については、大規模太陽光発電施設に対する懸念が多くみられ、その理由として景観への影響に加え、自然環境や災害への不安が挙げられました。併せて、景観ルール必要性を支持する回答も多くみられており、施設の立地や運用に対する市民の関心の高さがうかがえます。

今後も、市民の皆さまからの貴重なご意見を参考にしながら、福島市の景観行政を推進していきます。ご協力ありがとうございました。

【問い合わせ先】

福島市役所(〒960-8601 福島市五老内町3番1号)

《アンケート内容について》 都市計画課 電話024-573-4979(直通)

《LINE アンケート制度について》 広聴広報課 電話024-563-7488(直通)